

令和6年度 外国語 授業改善推進プラン

大田区立小池小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・教科全体として、基礎・活用ともに目標値と同程度であった。特に「聞くこと」の領域は、特に正答率が高く、基本的な知識・技能を身に付けることができた。
- ・アルファベットの形や発音に慣れ親しむ活動を定期的に取り入れたことで、音を聞き取り、文字を選ぶ設問の正答率が高かった。

(2) 課題

- ・例文を参考にしながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて英文で書くことに課題がある。第6学年では、英文をなぞり、書き写す活動に加えて、例文を参考に英文で書き表す活動を定期的に行う必要がある。
- ・「活字体で書かれた文字を識別し、正しく書く」ことは、中学校への接続に向けて、第6学年においても丁寧に指導をしていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率

【◎…目標値を上回った(+5以上) ○…目標値と同程度(±0～+4.9) ▲…目標値を下回った】

	令和6年度結果
第6学年	◎

(2) 分析(観点別)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日常会話や会話全体の内容を聞き取り、理解する力がついている。 ・数字や曜日、日付の言い方に関して、内容の定着に課題がある。	・適切な語句を選んで英文を完成させる設問の正答率が高かった。 ・例文を参考にしながら、英作文をする設問は、無回答もあり、課題がある。	・正答率が目標値と同程度である。 ・多くの児童が、外国語の学習に主体的に取り組むことができている。

3 授業改善のポイント(観点別)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○「聞くこと」「話すこと」の学習内容の定着のため、言語活動の量を確保する。 ○中学年で学習した内容を繰り返し活用して話す・聞く場面を設定する。 ○数字や曜日・日付けの言い方についてのやり取りを毎授業のあいさつに取り入れ、定着を図る。 ○活字体の読み書きをする活動を定期的に授業に取り入れる。	○例文を参考に英文を書くことの定着を図るため、聞く・話す活動と書く活動を結びつけて指導する。 ○単語を並び替える活動や、単語を組み合わせて英文を作る活動を取り入れ、段階的に書く指導を行う。	○児童の身近なものに関連したテーマを扱い、話す活動の意欲を高める。 ○児童が主体的に取り組んでいる英語の歌やチャンツなどを帯活動として行う。英語の歌を通して、表現や発音に慣れ、自信を付けられるようにする。